

(参考様式3)

会 議 録

会議の名称	平成30年度第3回東村山市立図書館協議会				
開催日時	平成31年2月21日(木) 午前10時～午後12時30分				
開催場所	萩山公民館第2集会室				
出席者 及び欠席者	●出席者： (委員) 小島恵津子委員・黒尾和久委員・石河聡子委員 徳永靖子委員・堀渡委員・宮川健郎委員 (市事務局) 資産マネジメント課 古田主査・深澤主事 寺島資産管理担当 新倉図書館長・野口館長補佐・宮後萩山地区館長 新井秋津地区館長 ●欠席者：川畑庄二委員・安藤環委員・真野朋子委員				
傍聴の可否	傍聴可能	傍聴不可の場合はその理由		傍聴者数	なし
会議次第	1. 公共施設再生計画出張講座 2. 報告 図書館からの報告 3. 協議 図書館の役割、あり方について 4. 萩山図書館について				
配布資料	事前配布資料 1. 平成30年度第3回東村山市立図書館協議会次第 2. 東村山市立図書館利用者アンケート(質問用紙) 当日配布資料 1. 施設再生ケーススタディブック 2. 冬休みお楽しみパック事業報告 3. 萩山図書館の概要				
問い合わせ先	事務局 東村山市立中央図書館 担当者名 野口 電話番号 042-394-2900 FAX番号 042-394-4107				

## 会 議 経 過

### 1. 公共施設再生計画出張講座

配布資料「施設再生ケーススタディブック」を元に資産マネジメント課職員が説明し、出席者間で意見交換をした。

#### <意見交換>

- 市の全体状況が分かり良かったが、この場では図書館への影響について議論したい。一口に公共施設といっても、市内に1か所あればよいものと図書館のように各地域に配置すべきものとは違う。学校中心に検討するのはわかるが、そのために配置バランスが崩れるのは良くない。複合化の検討では公共図書館と学校図書館の共有化が良く言われるが、それぞれの役割は違う。そこをどう考えるか。また、児童・生徒と一般利用者との空間の区切り方をどう考えるか伺いたい。

#### (資産マネジメント課)

1か所で良い施設と面的な配置が必要な施設とがあることは理解している。学校図書館と公共図書館の性質の違いなどについては今後図書館関係者の皆さんと共に研究していきたい。他市の事例でも学校と公共図書館の複合化については、実例があるので、それらも踏まえて十分な検討が必要と考えている。

- 学校に施設をまとめる前提で案が作成されているが、例えば市役所と中央図書館など学校以外の施設の複合化や、小規模な複合化も検討の余地があるのではないか。

#### (資産マネジメント課)

ケーススタディブックは、まず、学校を中心として、他の公共施設と複合化したらどうなるかのイメージをお示ししたもので、学校以外は複合化しないという事ではない。学校以外の小規模な複合施設としては図書館と公民館などを複合化した文化センター等がすでに存在している。ケーススタディは、複合化等の方策の必要性や、実際に行なった場合の良い点や悪い点などを議論するたたき台として作ったので、すべての施設についてケーススタディを作る考えはいまのところないが、これを元に様々な検討ができると考えている。

- イメージとして民活を考えているか。専門職の配置をどう考えるか。

#### (資産マネジメント課)

市では、従来の発想にとらわれず検討することを掲げている。民間の知恵を活用できるところは積極的に受け入れ、サービスを維持し、より良いものにしていきたい。図書館のサービスや機能のあり方については、図書館で考える必要があり、専門職の役割についても現在の社会状況等を踏まえ、図書館協議会等での議論がなされるものと考えている。

- 国内全体の状況を見るのでは大きすぎて実感がわからない。当市ではどうなのかを具体的に考えたい。施設の複合化を考える時に学校中心になるのはわかる。建物の耐用年数をリアルに考える必要がある。

(資産マネジメント課)

一般的にコンクリート造の建物は、築60年が更新の目安と言われている。東村山市では、10年後くらいに学校の建て替えが始まることになる。あくまで目安なので、築60年で一律建て替えるわけではない。今後どのように進めていくかは現時点で具体的なことは決まっていない。

公共施設等総合管理計画も考慮し、今後の図書館のあり方についてこういった場で議論を深めてほしい。

<意見>

- 複合化は寄り合い所帯特有の難しさがある。独立した施設であればそれぞれに最適な場所を選べるが、複合施設では難しい。運用上も同様である。市民に具体的なメリットを伝える必要がある。
- このケーススタディは人口減を前提としているが、市の人口減を食い止めるような効率化と税収増ビジョンをいれて計画を作成して欲しい。
- 政策的に街の活性化の視点がないと施設を小さくするだけの話になってしまう。デパートの上階に書店をいれシャワー効果を目指すところがあるが、図書館も同じ効果が期待できる。予約をせずに利用できる図書館は人を呼ぶ核となる施設になる。
- 他市で公共図書館と商業施設の複合化で成功しているところは多くある。図書館は施設の目玉になりうる。
- 市の子育て関連施設と図書館が複合化して成功しているところがある。しっかりと金をかけてでも前向きな施設統合を行う意思を持ってほしい。
- 東村山が何をシンボルにしたいのかビジョンを持って施設を作ってほしい。大都市では映画館のある施設に図書館が入っていたり、地方では日常的なスーパーと同じ施設に入っていたりそれぞれの状況にあわせて作っている。
- 財政に余裕のない地方の方が工夫しているように感じる。
- 地方都市で、駅前の無料駐車場と図書館などを併設したところがある。武蔵野市の武蔵野プレイスは新しい発想の図書館だった。
- 東村山市内でも人口増減は地域差がある。第二中学校は生徒が増加している。市全体として減っているというだけでなく、細かい地域ごとのシミュレーションが必要だと考える。
- 関わる場所が増えると法的な検討も必要である。
- 運営を民間委託した場合、責任の所在が気になる。
- 博物館は収蔵品を守るために、スプリンクラーが設置できない場合がある。また、展示場だけでなく収蔵庫も必要になるが、複合化によりバックヤードが縮小される

傾向がある。個々の施設に必要な機能、面積はしっかりと出していくべきである。

- 施設再生はハードだけでなく、それを運用する職員のことにも視野に入れて欲しい。
- 当市は駅がたくさんあるのが良いところである。図書館を駅前に作るなどの積極的な再生計画を望む。当市を住みたい町にして欲しい。

## 2. 報告

(事務局) 11月以降の事業等について報告する。

- 冬休みお楽しみパックについて

前年度に引き続き2回目の実施である。12月22日から28日に行った。日頃手に取られにくい本をタイトルが見えないようにパックにしてキーワードやテーマを貼り貸出をした。今回はパック内にアンケートを同封して感想を記入していただいた。利用者の反応は好評で職員が本に向きあう機会にもなるので今後も継続したい。

- 中央図書館トップライト（天窗）改修工事に伴う休館

2月1日から28日まで老朽化したトップライトを屋根に葺き替える工事を行っている。館内に足場を組むため1か月休館した。期間中は中央館に臨時窓口を設置し、予約本の貸出や予約カードの受取など一部のサービスを行った。利用統計を取ると地区館の利用が増加した。特に富士見館と萩山館は3から4割貸出しが増加している。そのため土日は、中央館から地区館に窓口の応援を派遣した。

- 富士見図書館空調設備工事に伴う休館

3月11日から15日に故障した空調工事に伴い室内機交換のため天井をはがすため休館する。期間が短いので臨時窓口の設置は行わない。

- PTA二者懇談会

小中学校PTAから教育委員会への意見を聞く場である。図書館関連では、公共施設がない恩多町地域での対応を求められた。恩多ふれあいセンターの図書コーナーに図書館から寄贈した児童書の再利用本の入れ替えを行ったことなどを説明した。

- 東京都教職員互助会主催「第15回ふれあい感謝状21」体験活動・社会貢献活動部門でおはなし宅配便ポポが受賞した。

- 図書館利用者アンケート

1月8日から20日まで全館で来館者を対象としたアンケートを行った。全館で2,875枚配布、1,461枚を回収した。集計が終わり分析中であるが、おおむね日常のカウンターでの印象と重なる結果ではないかと思っている。回答者の割合は60代以上が48%とかなり多い。コーナーの認知度の質問では「ハンセン病を知る本のコーナー」が21%、中高生向けの「ティーンズコーナー」が22%と高齢者の回答者が多かった割には認知度が高かった。施設の充実度については低めの評価が出た。今後ホームページ等で結果を公表する予定である。

- お楽しみパックのテーマはどんなものがあつたか。

(事務局) 鉄道やミステリ等バラエティに富んでいた。

- 他市での類似事業で「泣きたいときに」等の抽象的なテーマがあった。

(事務局) パックはテーマ先行であったり、本を集めてから、くくりを考えたりいろいろな形で作成した。

- 今年は5月に10連休がある。出かけられない子どももいると思うのでそういう子向けのミニ企画でパックを作っても良いと思う。
- 当市では子ども向けの企画は充実しているので、このような大人向けの企画も行ってほしい。

(事務局) 職員にとっても、借りられるか、アンケートでの評判が良いか、等の緊張と喜びがあった。

- 選んだ本の見せ方の訓練にもなるだろう。
- 利用者アンケートは今後も行うのか。

(事務局) 経年変化を見るために続ける。今回の反省を踏まえて、今後は年代別の回答傾向が分析できるようにしていきたい。

- 若い人の意見を知りたい。
- 利用者だけでなく、図書館を使わない市民全体の意見を知りたい。

(事務局) 市では「市民意識調査」を行っているが、ここでは「生涯学習について」など大きな聞き方しかしていない。平成25年に市の公共施設に関するアンケート調査を市民全体にしているが、図書館が利用頻度では一番多かった。

- アンケートの回答だけでなく投書等の自発的な意見も合わせて確認できるとよい。

### 3. 協議 図書館の役割、あり方について

(事務局) 前回までに、他の公共施設に図書館機能を拡大することについて意見が出ていた。東村山駅サンパルネ窓口での予約図書受取りについては、事務室の狭さがネックとなっている。借りにくるまで本を置いておく場所がない。

P T A二者懇談会でも出た恩多ふれあいセンターについては、市が市民協議会を指定管理者として運営を委託している施設であり、担当所管等と様々な調整が必要になる。

- 図書館は介護や高齢者関連など協力していることは多い。インフラの中心として充実を考えてほしい。当市の中央図書館は狭いためコーナーの使い分けがしにくい。中心館としてバックアップ機能の拡充を望む。また、スタッフについて、司書職員の高齢化が進んでいるので補充をしないとノウハウの継承ができなくなってしまう。特定のサービスだけでなく全体を見てのあり方を考えたい。課題をまとめて今

年の8月からの次期委員に引き継ぎたい。

- 西武鉄道の連続立体交差工事に関連して、高架下の利用について他市でうまくいっている所がある。当市でも有効利用の道を探るよう、市民の声として届ける必要がある。

#### 4. その他

(事務局) 次回は6月を予定している。第22期委員の最後の会となる。

#### 5. 萩山図書館について

資料に基づき説明した後、館内を見学した。